

## 第5回半田市議会定例会決算審査総務委員会委員長報告書

当総務委員会に付託された案件については、9月17日、20日及び26日の午前9時30分から、いずれも委員全員出席のもと全員協議会室において、慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告申し上げます。

認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

初めに、一般会計について申し上げます。

市長として、予算編成方針どおり、実施できたと感じているか。とに対し、東日本大震災を受けて、停滞ぎみであった経済状況の中、半田市では、市制75周年事業として、はんだ山車まつりを実施いたしました。予算編成においては、今までのやり方をそのまま踏襲するのではなく、視点や方法を変えることで、新たな効果を生み出すため、よく考えるよう周知いたしました。100点満点ではないが合格点はいただける結果になったのではないかと考えております。とのこと。

人事管理事務事業の成果指標について、人口1万人あたりの一般行政職員数は、目標値を達成しているとのことだが、この数値設定の根拠は何か。また、この数値を達成したことによる、半田市の状況は。とに対し、

目標値の根拠は、類似団体の平均値としております。目標を達成したことについては、効率面では一定の成果をあげたと言えますが、これは、技能労務職の不補充が主な要因であります。その部分については、再任用、任期付職員、臨時職員で対応しており、今後も市民サービスの観点から適切な職員数の検討をしていきたいと考えています。とのこと。

平成22年から技能労務職を採用しておらず、平成20年に、128名いた職員も現在は、63名と半減している。適正な職員数を検討していく時に、技能労務職は人数に入っていないのか。また、学校用務員は今後どうしていくのか。とに対し、

「民間でできることは民間でやっていく」という考えから技能労務職の採用を中止した経緯があり、今後、技能労務職の配置が必要な部署については、原則、委託を選択していきたいと考えております。学校用務員については、再任用職員とし、営繕的な業務は、1か所に職員を集めるステーション方式で、各小中学校を回る形を検討しております。とのこと。

正規職員と臨時職員の配置について、どのように考えているか。とに対し、

臨時職員は、正規職員を補完する業務をやっていただくことを基本に、配置をしていきたいと考えており、産前産後休暇、育児休暇の代替職員については、任期付職員の配置を検討していきたいと考えております。とのこと。

市政懇談会について、なぜ、昨年より開催日数を減らしたのか。また、例年の7月8月ではなく11月開催としたのはなぜか。とに対し、

市政懇談会については、隔年実施のため、当初は予定していませんでしたが、8月末に南海トラフを震源とする巨大地震による、本市への被害想定が発表されたことにより、急きょ開催決定をしたものであり、日数もスケジュール調整の結果、5日開催となりました。とのこと。

コミュニティ FM 事業については、予算を組んだものの開局されていない状況であるが、今後の予定はどうなっているか。とに対し、

FM 事業については、アンテナの位置や周波数の問題により、現在、事業者と総務省で協議を行っております。年内には予備免許を取得し、次のステップに進みたいという事業者の意向です。とのこと。

バス路線対策事業について、24年度に実施した事業内容は。とに対し、

緊急雇用創出事業により路線バス調査事業を行い、利用者のアンケート調査や市民の意識調査を実施し、市内路線バスの分析を行いました。また、知多バスとの協議の中で、利用者の利便性を図るため、バス停位置の移動や亀崎地区では、路線図等を配布しました。とのこと。

リニア中央エクスプレス建設促進愛知県期成同盟会負担金は、6000円と少ない金額ではあるが、中間駅でもない半田市が負担金を出す意味合いはあるのか。先日、路線案が発表されたが、今後、半田市はどのように関わっていくのか。とに対し、

リニアが開通しますと東京一名古屋間が40分、乗り換え等を考慮しなければ、東京一半田間が1時間と少しく行くことができます。東京へお金や人が流れるストロー現象も心配されますが、一方で、東京という大都会が近くなるということは、半田市にとっても大きなチャンスになるものと考えており、リニアの建設促進を図っていきたいと考えております。とのこと。

ふるさと新発見事業については、市民活動公募提案型助成事業の助成金を受けた市民団体の活動が大きかったと判断しているが、成果はいろいろな事業が関連して成していると思うが、市長の考えはいかがか。また、行政は縦割りで効率化を図っているが、課ごとの連携が重要であり、成果指標に示すのが難しいのであれば、成果報告書に他事業との連携であることの表記も必要ではないか。とに対し、

ご指摘のとおり、市民活動公募提案型助成事業がその一助になっているものと思われます。成果報告書への表記もひとつの考え方としますので、ご指摘の点を踏まえて、いろいろな施策の表現の仕方を考えてまいりたいと思います。とのこと。

市民協働推進事業のうち、セカンドライフフェスティバル参加者数や3倍成人式出席者数については、目標値を達成し増加しているが、この結果をどのように分析しているか。また、今後にどのようにつなげていくのか。とに対し、

参加者が増えた要因として、3倍成人式については、講演内容によるもの、また、セカンドライフフェスティバルについては、開催場所を1か所にしたことにより、市民が来場しやすかったことや手軽にできるニュースポーツを紹介したことが好評であったと考えています。今後については、結果に満足することなく、いろいろなところで各活動を啓発し、きっかけづくりをしていきます。とのこと。

市民参画支援センターの公募では、応募に対し、もれた団体がいたのか。また、契約期間及び小学校との関わりは。とに対し、

4団体の募集に対し、4団体が入りましたのでもれた団体はありませんでした。契約期間は最長で27年3月までとしており、契約は年度ごとに確認を行います。小学校とは定期的に情報交換会を行っており、団体のイベントや講座の紹介を行い、特に児童に向けた取り組みがあれば、学校から児童への啓発をしてもらうなどの連携をしております。とのこと。

ラスパイレス指数について、23年度の100.9から24年度は108.6に上昇したが、半田市の適正な数値は。とに対し、

ラスパイレス指数は、100を超えています。本給の部分のみの比較であり、超過勤務手当や地域手当等は反映していません。年収ベースで他市と比較する中、半田市は、どのような給与水準にあるのかを考える必要があると感じております。とのこと。

職員等駐車場使用料の月額料金と計算根拠は。とに対し、

駐車場の課税標準額をもとに行政財産目的外使用の算定数式に当てはめて算出しております。また、行事等により使用の制限を加える駐車場であるため、現在の月額1500円が妥当であると判断しております。とのこと。

複写機借上料はどのように契約し、消耗品などの経費削減をするために、庁内ではどのような検討がされたか。とに対し、

複写機は現在、庁舎内9か所に設置しており、それぞれ指名競争入札によ

り使用枚数に応じた単価契約を結んでおります。経費削減については、メールを活用するなど、なるべく紙や複写機の利用を減らし、他の媒体で情報伝達をするよう各課に周知しております。とのこと。

事務事業評価については、成果指標が事業の本来の目的と離れている部分が見受けられたが、市長はどのように感じているか。とに対し、

成果指標については、議会の質問、または昨年決算審査でもご指摘をいただき、定量的な目標は必要であるが、市民の観点を入れることも必要であると指示をしました。まだまだ十分ではないと思っており、市民が求めていることをどのように数値化できるか、そういう点に、踏み込まないといけないと思っております。とのこと。

他市町で作っている成果指標のガイドラインを作成する予定はあるか。とに対し、

他市町で作っているものを参考にし、それぞれの成果指標を表現するのにふさわしいものであれば、市として考えていく必要があると思っております。とのこと。

平和運動推進事業については、今後、新たな活動をする予定はあるか。とに対し、

現在、実践している事業メニューを着実に実践、または拡充していく方針で、24年度は、2年ぶりに平和懇談会を学校出前講座で実施しました。今後は、平和運動を推進している協議会の事業活動を参考にしながら検討していきたいと考えております。とのこと。

貸借対照表や行政コスト計算書などの財務諸表から、何を読み取って、次年度の予算に生かすのか。とに対し、

財務諸表から得られる指標等の意義については、分析していますが、財務諸表そのものを予算編成や財政運営にどう活用するかについては、現在、研究しているところです。とのこと。

市税の調定額に対する収入未済率について、半田市は6.2パーセントであり、県平均の3.7パーセントと比較して高い数値となっているが、この要因は何か。とに対し、

滞納繰越額が大きいことが要因であると認識しております。現在の収納向上計画でも収入未済額の解消を目標に掲げて取り組んでおりますが、決算は、依然、高い数字になっております。今後も収入未済額の縮減に向けた取り組みを引き続き行っていきます。

また、滞納処分として、差し押さえの強化とともに、現年分の滞納を次年

度に繰り越さない対策も必要と考えています。とのこと。

市税等徴収事務事業のうち、収納にかかる手数料及び今後のコンビニ収納についての考えは。とに対し、

手数料については、1件あたり、口座振替は10円50銭、コンビニは58円80銭となっておりますが、コンビニでの収納は21年度以降、増加しており、市にとって大きな財源となっております。

特に若い方たちのコンビニの利用が多く、一定の費用はかかりますが、納税の機会を増やすことも市として必要と考えております。コンビニ収納については、今後も継続して行うとともに、口座振替についても、積極的にお願いをしていきます。とのこと。

同じく、市税等徴収事務事業のうち、質の高い折衝方法等により、徴収技術の向上が図られたとあるが「質の高い折衝方法」とは何か。とに対し、

知多地方税滞納整理機構に派遣する職員は収納経験2年程度の職員としており、滞納整理機構の県職員から指導を受けて、折衝や公買、差し押さえなどの実施により経験を積むことによって技術の向上を図っています。とのこと。

基金積立金のうち交通安全基金を取崩しているが、その理由は。とに対し、交通事故防止のための交通安全施設や安全啓発などの交通安全推進事業に充当しております。とのことでした。

次に、半田市駐車場事業特別会計について申し上げます。

雁宿駐車場については、管理を半田身体障害者福祉会に管理委託しているが、この委託料の積算根拠は。とに対し、

営業時間の早朝5時から深夜12時までの管理を委託しております。基本的に1人の勤務ですが、雁宿ホールのイベント開催時などは2名の配置としており、年間延べ9930時間の勤務となっております。これらの給与790万円のほか、通勤手当や期末勤勉手当、法定福利費等を計上しており、委託料は1200万円余となります。とのことでした。

次に、半田市モーターボート競走事業特別会計について申し上げます。

24年度の事業収入はゼロであったのに対し、常滑市は黒字補正をしている。どのようなしくみになっているのか。とに対し、

常滑競走場で開催された日数210日のうち、24日間は半田市の開催分でありましたので、レース開催時間帯に得られた収入から経費を差し引いた額を開催日数により按分し、その額から常滑市への委託金を引いたものが、半田市の収入となります。24年度は赤字となったため、事業収入はありませんでした。また、常滑市は本場でレースを開催していない時間帯でも他場から販売委託を受けており、その委託料は常滑市固有の収入となります。とのことでした。

以上のような質疑を行った後、討論を省略し、一般会計と2件の特別会計を採決しました。

まず、平成24年度半田市一般会計の歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件については、挙手により採決した結果、賛成多数をもって認定することに決定しました。

次に、平成24年度半田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算については、採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、平成24年度半田市モーターボート競走事業特別会計歳入歳出決算については、採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、認定第2号について、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

黒字決算となった原因は何か。とに対し、

平成24年度の診療報酬改定により、薬価に関しては1.26パーセントのマイナスであったものの、入院に関しては、2.07パーセントのプラス改定がされました。その影響を受けて、当病院の主にDPCの係数が少し引き上げされたことのほか、入院患者の手術料についても大きくプラス改定がされました。また、地域医療支援病院の承認取得により診療報酬に反映されたことなどが大きな増収につながったと分析しております。とのこと。

クレジットカード決済について、手数料はいくらか。とに対し、

クレジットカード会社3社と委託契約を結んでおり、いずれも0.8パーセントの手数料を支払っております。とのこと。

看護師の雇用を確保するための手立てはないか。とに対し、  
看護師の負担軽減のために看護助手を少しずつ増やしている状況です。今後としましては、看護助手も昼間だけでなく、夜間看護助手の増員も課題だと考えております。とのこと。

23年度から24年度にかけて、開業医等からの紹介率が若干頭打ちになっているが、その理由は。とに対し、

公立病院の紹介率は、大体60パーセント台がほとんどの状況であります。地域医療支援病院を承認取得したことにより、さらに地域の医療機関等と密接な連携、患者さんの紹介、逆紹介を円滑にすすめることによって紹介率を高めてまいりたいと考えております。とのこと。

防災訓練の実施状況は。とに対し、

24年度は11月に病院内で本部の立ち上げ訓練を机上訓練として実施し、また、2月には火災訓練を実施しました。とのこと。

新病院の建て替えについては、どのような話し合いがされているか。とに対し、

病院の幹部が集まり会議を開催しております。その中で、病院職員に「どんな病院だったらいいのだろう」というアンケートをとり、理想の病院を考えたり、現病院に何が足りないかを洗い出している状況です。とのこと。

看護師の勤務については、変則2交代制としているが、休憩はきちんととれているのか。とに対し、

労働基準法では8時間以上働くと、少なくとも60分の休憩時間をとることになっていますが、16時間勤務は、何時間か記載がありませんので、組合との協議の結果、16時間勤務中、75分の休憩時間を確保することとしています。ただ、患者さんが静かな時など、時間があるときは積極的に体を休めるよう指導しております。とのことでした。

その後、討論を省略し、挙手により採決した結果、賛成委員全員をもって認定することに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。